



源氏蛍

蛍

幻想的な蛍の光

薄明りの中でポツ、ポツ・・・と光を放っていた蛍たちは、暗闇がつくと心を合わせたかのように一斉に調子を合わせて光り出し、見ていた私たちはいつしか幻想の世界へ引き込まれていきました。

6月30日 井戸尻史跡公園の蓮植栽田周辺で蛍観察会（主催：高原の自然と文化を守る会）が開催されました。子どもを含め50人ほどが参加、名取昇一先生から蛍の種類や生態についてお話を伺いました。このあたりに生息しているのは源氏蛍と平家蛍の2種で、光り方で違いがわかるそうです。蛍が光るのは“恋の季節のラブコール”成虫になってわずか2週間の命ゆえ、今宵一夜と精一杯の光を放つのでしょう。

町民の皆様からも「蛍がたくさんいるよ。」と情報をいただき、ありがとうございました。蛍が増えたことは、私たち人間にとってもやさしい環境になってきたということですね。

新まち通信

～明日のために・～

ニチレイフラワー事業部と行政の連携で、ミニインフィオラータに挑戦しました。

富士見町の乙事にあります㈱ニチレイが栽培している「彗星らん」の花びらを敷きつめて「ミニインフィオラータ」（たたみ1畳程度）を制作しました。二日間限定で、富士見町役場ロビーに展示しましたが、期間中は多くの方々に立ち寄っていただき「小さくても豪華なインフィオラータ」を満喫していただくことができました。

㈱ニチレイでは不要になった彗星ランの花びらを定期的に摘み取り、廃棄処分しているそうです。花びらを活用してロビーをデコレーションすることで、住民の皆様気軽に立ちよっていただき、親しみのある場所として富士見町役場をご利用いただくことを目的に展示しましたが、時価数十万相当の花びらで描いた50（町制50周年）の文字は豪華に浮かび上がっていました。まさに世界一贅沢なインフィオラータ？でした。



今回は試験的な取り組みとして制作しましたが、花びらが工夫次第で3日間持つこと、水に浮かべると透きとおってしまうことなどがわかりました。はじめての取り組みですが、多くの可能性を見出すことができました。今後は花びらを活かしたイベントについても研究してみたいと思います。このコーナーに関する“ご意見感想”をお寄せください。



【お問い合わせ】総務課新しいまちづくり係

TEL62-9328（有）9328 FAX62-4481

e-mail : shinmachi@town.fujimi.nagano.jp